



ミヤザキ ケンスケさん Miyazaki Kensuke
1978年佐賀市生まれ。筑波大学卒業後、ロンドンでアート制作を開始。「Super Happy」をテーマに見た瞬間に幸せになれる作品を展開。現在、世界中で壁画を残す活動「Over the Wall」を主催し、現地の人々と数々のプロジェクトを実現中。



2020.3~START!

Super Happy Train Project

【スーパーハッピートレインプロジェクト】

世界で活躍する画家・ミヤザキケンスケさんが福智町の小学生と一筆一筆を積み重ね、「最高に幸せな列車」とともに描き創る夢のような一大プロジェクトが始まります。



鉄道に描く、日本初のアートプロジェクト始動

世界中を飛び回り壁画を残し、国内でも被災地を訪ねて絵を描くなど、多くの地域の人々を巻き込みながらアートを生み出し続けている画家・ミヤザキケンスケさん。その世界的アーティストとしても実際に稼働する鉄道車両に絵を描くという日本初の産官学連携によるアートプロジェクトが、JAL・平筑・福智町、そして町内の児童たちの手で実現します。

地域から愛される鉄道車両に福智の子どもたちの手で彩りをのせた「世界で一つ

エクアドル (2018.9~)
日本との外交100周年を記念して制作したバスベント。いすゞ自動車株式会社から提供されたバスは、低所得の子供たちの交通手段として利用されている。



完成イメージ

プロジェクト概要
実施日：3月14日・15日
塗装車両：なのはな号
参加者：町内の小学生、ボランティアスタッフ

だけの車両」が、福智山のふもとや地元の原風景を背景に、地域の人々をのせて走る「スーパーハッピートレインプロジェクト」。アートが持つ力を生かしたまちづくりを進め、その魅力を広く発信・共有し、交流人口や関係人口の増加を推進するとともに、子どもの感性や郷土愛を育むことを目的としています。

住民参加で残すアート 地域をかける作品誕生へ

これまで多くの国や地域で住民参加型のプロジェクトを手がけてきたミヤザキさんは、現地の人と協力して作品を作ることを大切にしています。「ある国で壁画を制作したとき、一からやり直しになったことがあります。その時、住民の皆さんが手伝ってくれた。その壁画が完成した時の、参加者の笑顔が原点にあります。現地に残すものは現地の住民の手が入ること、より一層愛着がわくと信じています」と力を込めました。参加する子どもを第一に考え、



↑ミヤザキさんが2月10日に来町し、車両を細かく確認。「イメージは固まりました」とプロジェクトの成功に自信をのぞかせた。

塗料も水性のものを準備するなど、安全面にも最新の注意を払っています。

経験豊富なミヤザキさんにとっても電車に絵を描くことは初めての挑戦。「個展やギャラリイなどの絵は、好きな人だけが見る世界。しかし壁画などはいつでも、誰の目にも入ってくる。皆さんとともに創り上げた車両が、地域をかける様子を想像するとワクワクします」と笑顔を見せました。車両はコーティングなどの処理を施し、4月から実際に運行する予定です。

ミヤザキさんと子どもたちの思いが積み重なり実現する「スーパーハッピートレイン」町の可能性を広げる夢の車両にぜひご期待ください。

オーバーザウォール **OVER THE WALL**
1年1か国、世界中で地域とともに壁画を残す



ケニア (2015.1~)
ナイロビの小学校の新校舎に子どもたちとともに壁画を描き、日本の小学校とつながるプログラムも実施。



東ティモール (2016.8~)
インドネシアから独立した新国の首都ディリの国立病院の壁に、孤児院や小学校の子どもと明るい未来を表現した。



ウクライナ (2017.7~)
東部に位置するマリウポリ市で、いまだに騒乱の弾痕が残る学校に平和のメッセージを込めた壁画を残した。



ハイチ (2019.6~)
国境なき医師団と協力し、同団体の病院に壁画を描写。患者自身も参加することで、精神的ケアにも貢献。